

第9回 立川市新校舎建設マスタープラン検討委員会

日時 : 平成29年3月8日(水) 18:00~20:00

場所 : けやき台小学校 視聴覚室

出席者 :

- 【検討委員会委員】 ■長澤委員長 ■富永副委員長 ■菅原委員 □小林委員 □佐藤委員
■須崎委員 ■星野委員 ■大野委員 □藤縄委員
■山田委員 □堀江委員 ■白井委員 ■栗原委員 (教育部長)
■吉岡委員 ■宮城委員 ■飯塚委員 ■梅津委員
- 【市職員】 ■小林課長 (施設課) ■田村課長 (学務課) ■神崎課長 (子ども育成課)
□小瀬課長 (指導課) □矢ノ口課長 (教育支援課)
- 【事務局】 □庄司課長 (教育総務課) ■中島 (教育総務課)
- 【策定支援業者】(株)豊建築事務所 ■田中 ■奥澤 ■高柳 ■表 (以下敬称略)
-

開催に当たって

- ・配布資料の確認を行った。

1 今回の検討委員会について

- ・本日は前回の検討委員会で、新校舎建設マスタープラン(案)について検討委員からいただいた意見を受けて、修正した点を議論する。

2 新校舎建設マスタープラン(案)について

- ・策定支援業者から、新校舎建設マスタープラン(案)の前回からの修正点について説明を行った。

<主な意見>

【委員長】 スケジュールについて少し前倒しして、3学期あるいは卒業式を行うことは可能か。学校によっては慣れた学校で卒業式をしたいというケースもある。

【小林課長】 来年度から設計を進めていくが、許可申請の時間などを考えると、今のスケジュールでも非常にタイトになっている。今の段階で3学期に開校できるというお約束はできない。

- 【委員長】 新校舎の計画学級数として、「たんぽぽ学級」のクラス数はどのように考えているのか市の考えを伺いたい。
- 【栗原委員】 若葉小学校の「たんぽぽ学級」は現在2クラスだが、新校舎の計画学級数は3クラスと考えている。
- 【C委員】 屋外学習空間の項目の中の「みんなの森」について、具体的な行為のイメージが浮かぶような表現を追加してほしい。
- 【M委員】 新校舎の給食について、単独調理方式がよいのではないかという意見が保護者からあった。もし立川市の方針が新校舎の給食については共同調理場方式ということならば、その点をマスタープランの中で記載した方がよいのではないか。
- 【委員長】 立川市の方針が共同調理場方式ということならば、それを条件として給食の安全管理についてきちんと書いておく必要があると思う。配膳室から給食を安全に運搬するリフト等は検討されているのか。
- 【策定支援業者】 配膳室の中にダムメーター（小荷物昇降機）という小さいエレベーターを設置し、各階配膳室に安全に給食を運搬できるように計画している。
- 【M委員】 今回の新校舎は、計画条件として共同調理場方式であることをきちんとマスタープランの中で明示すればよいと思う。
- 【C委員】 普通教室の方は小空間を設けるという事が書かれているが、特別支援学級については小空間を設ける等の記載がない。特別支援学級の項目でも少人数のグループに分けるといった柔軟な対応ができる工夫について、盛り込んでどうか。
- 【委員長】 将来の学級数の変化、学級編成の変化に対応できるよう、な自由度のある計画にしておいた方がよいと思う。現在の計画でも特別支援学級のまとまりをつくり、その中に、プレイルームのある計画としている。いろんな形態に対応できるということを含めて様々な変化に対応できる計画とするという事が明示できるとよい。
- 【C委員】 避難所を開設した際のペットの扱いについて、市の避難計画での位置づけを踏まえてマスタープランに記載する必要はないか。
- 【栗原委員】 避難所を開設した際、ペットは建物内には入れないというのが、市の

方針である。ペットについては庇等があるところで、対応することを想定している。

【Q委員】 ペットの扱いは微妙な問題で、慎重に対応するべき事柄だと思う。ペットも家族だという考えもあるが、マスタープランには盛り込まず、運用面を市の方で慎重に検討してもらった方が良いと思う。

【C委員】 市としての対応があれば、それに応じて提案すればよいと思う。その点を確認させて頂いた。おそらく現実には、庇のありそうなところで対応していく事になろうかと思う。

【委員長】 命を育てる学校としての考え方を大切にしたい。市の方針をベースにして、例えば、大きな庇があるような空間を用意することは有効だろう。それはペット用という事だけではなくて、避難の際の多数の受入れ口になり、支援の物資の仕分け等の場ともなる。ペット対応も含め、いろいろな意味合いを含めて庇の空間を設けたり、庇を造れるような用意をしたりすることを検討することが大切である。

【G委員】 避難所を開設した際、ペットについては、遊具など簡易にシートで覆いのできるものを活用するという考えもあるのではないか。

【委員長】 庇のある空間を仮設的にできるような工夫もあるだろう。

【Q委員】 2階の屋上に屋上緑化・学級菜園が配置されているが、屋上に菜園を設けるという考えでしょうか。あくまでもそういうことを考えているという程度なのか。

【策定支援業者】 学童保育所部分は平屋建てとなっており、屋上となっている。屋上緑化や、低学年の1、2年生に近いので気軽に出ていきやすいというような意味合いで学級菜園という表現をしている。

【Q委員】 学級菜園をつくると、誰が維持管理をするのかが大きな課題となる。先生が管理するのは大変で、忙しくてできないと思う。専門の業者に依頼するとお金がかかるだろうし、農家の人をお願いして管理をやらせようとか方針を考えてから始めないと、いつの間にか草がぼうぼうの状態になる。屋上でやるという事は、大きなプランターでやるのと変わらない。プランターだと水やりなどきちんと世話をしあげないとすぐに枯れてしまうので管理が非常に大変なことを十分認識しておく必要があ

る。

- 【委員長】 地域の人たちや保護者が、家庭菜園を管理している事例もある。そういう時は学校の管理区分に入らないところから、直接行ける動線をきちんと考えるなど、施設的な配慮をしなければいけない。今の指摘を踏まえて、基本方針や目標を決めていけるとよい。

3 まとめ

- 【委員長】 今回でこの委員会での検討は最後になる。最後に各委員の皆様から新校舎建設に向けて、一言お願いしたい。

- 【H委員】 マスタープランはよくできていると思うので、良い学校ができることを期待している。いい器を作って、多くの優秀な子どもたちを輩出していただければと思う。

- 【G委員】 若葉町は良い地域ですので子供たちが新しい校舎でのびのびと仲良く学びを楽しんでいけるような学校にしてほしい。基本設計ではマスタープランを土台にして、子どもたちのためにもっともっといい学校ができていく事を願っている。防災関係のトイレに関して次の設計段階でも十分検討して頂けると、防災面でまた一つ安心が深まるかなと思う。

配置図にある屋外倉庫等は、体育倉庫等、倉庫が何個かあるようなイメージでしょうか。子ども会等の備品を置かせていただいているスペースがあるのでそういったスペースも検討してほしい。

- 【委員長】 屋外倉庫等というのは図の位置や形という事ではなくて、こういった屋外関係の施設が必要だという意思表示としてとらえ、これらを具体的にどこに配置するかは、今後、学校等とやり取りしながら大きさや位置が決まっていく。

- 【Q委員】 私は避難所という観点から検討委員をやらせていただいた。全部の実現は難しいと思いますが、お伝えしたようなトイレ等の要望について実現して頂ければ、大変ありがたいと思う。ただ立派な建物ができて運用する人間の問題もある。運用面をよく考えておかないと、大釜はあるけれど、火がうまくつかない、避難者名簿あるけど、鉛筆がない等、実際に避難所開設した際に現場が困ってしまう場面が出てしまう。行政に

はその点を十分考慮し、防災対策を検討して行ってほしい。

【F委員】 娘は、校舎ができてこちらに移るときに卒業してしまう。私は新しい若葉小の第一回目の入学生で新しい校舎の匂いは、今でも思い出に残っている。できれば娘と一緒に新校舎内を3月に回れることができれば嬉しいと思っている。

【C委員】 ここでマスタープランが完成するが、あくまでこれがベースである。これから基本設計、実施設計を進めるにあたって、マスタープランに示した事と実際の設計段階における調整は、とても大事である。学校が現実の物に作り上げていく様子を、今後も見守らせていただきたいと思う。

【副委員長】 検討委員の皆様から様々な立場から意見等が出され、マスタープランがまとまったことで、新校舎の土台ができたなと感じている。土台がしっかりしていなければ計画が崩れてしまう。これから設計等に入っていくわけだが、このマスタープランで示された目標や方針等が本当に新校舎にいかされると思うとわくわくしている。新校舎完成後、新校舎で学校生活を送ってきた子どもたちが、九中に来ると古い校舎だと感じると思う。でも九中の廊下はきれいな木で設えてありピカピカである。新しい物も良いが、そうやって新しいものも古くなっていくのでそれを磨き上げて、きちっと伝統を感じさせることができる。新しい学校も、きちっと伝統を感じさせることができるものに地域と共に私は作っていきたい。僕はみんながこの検討委員会で集まって、どんな新校舎にしようか話し合ってきたプロセスや協力が今後、若葉町をいい街にしていくのではないかなと思う。

【O委員】 これだけ時間をかけて話し合ってきたことだから、地域の皆様や、保護者の皆様方に喜んでもらえるような校舎ができると良いなと思っている。ただ、作るのは学校で、一番大切にするのは子どもたちの学習環境であり、子どもたちの安全である。このことに立ち返り、確認しながら最後まで計画を進めて行ってほしい。

【P委員】 マスタープランという形で土台となる考えがしっかりしたという事で、次はいよいよ子どもたちのために使い勝手がよく、気持ちよく学習でき

る環境にするための、いろいろな細かな配慮が必要になっていくと思う。今後も新校舎がどんな姿になっていくかしっかりと見極めていかなければいけないと考えている。今後、学校で働く教職員の意見も丁寧に聞きながら、設計を進めていってほしいと思う。

【M委員】 マスタープランは新校舎についてだが、忘れてはいけないことが、3年間若葉小学校で過ごす子どもたちのことである。その期間を大事にしていきながら、この新校舎へしっかりとつなげていってほしい。また新校舎を建てるにあたって、戦災や関東大震災も耐えてきた都内の校舎のように、新しいものばかりを取り入れるのではなく、この後100年を見据えた、どっしりしたものを造ってほしい。目先のデザイナーブランドみたいなものにはならないでほしいなと思っている。

【N委員】 私は幸せなことに、新生小学校のときにもこういう会に参加させていただいて、学校だけでなく地域の熱い思いを聞きながら、スタートした、先ほど中身がという話がありましたけど、想いを受けているので、新生小に5年間いましたが、スタートから新しいことをやろうとチャレンジ精神でやれた。もちろんいいものを残しながら、子どもたちのためにいろいろなことが出来たらいいなと思っている。

【栗原委員】 検討委員の皆様のご協力で、マスタープランをまとめることができ、感謝します。我々行政は、これがスタートになります。今後、マスタープランに基づき、しっかりと設計や建築を進めていき、平成33年3月には、皆さんや子供たちが喜ぶ顔を見られるように我々は頑張っていきますので、今後ともご協力のほどよろしくお願いします。

【J委員】 ようやく大規模改修じゃない本当の校舎ができる。トイレに行くたびに臭いと、大規模改修しても臭いは消えないのではないかと、不安を抱いていた。ようやく数年後に新校舎ができると思うとすごくうれしい。立て直す校舎は頑丈で、本当に良いものができると思う。新校舎は、この学校しかないというようなものにしてほしいと願っている。

【委員長】 委員の皆様におかれましては、お忙しい中、ご協力いただきありがとうございました。マスタープランは、建築の設計の中で無数にある項目について、どちらを選ぶかの判断や決断をするときの一番の基本。言っ

てみれば憲法をつくったようなものです。これに照らして、それぞれの空間について検討しながら、設計を進めていくこととなります。そういう意味で非常に大事な作業をこの検討委員の皆様にしていただいたと思っています。これはスタートだというご発言がありましたが、その通りだと思います。設計、建設の経過については、ぜひ随時、各委員にも伝えていただけると、ここで議論したことの意味や責任について実感が持てると思うので宜しくお願いしたい。

副委員長を務めていただいた富永校長から九中の廊下はピカピカだという話がありましたが、これまで立川市の学校づくりに関わってきて、九中だけでなくどの学校の床もピカピカでした。廊下はスリッパで歩くと滑って危ないくらい光っているというのが、立川の学校の感じでした。また、廊下に子どもたちの作品とか学習成果物が並べられていて、今何を勉強しているかわかり、毎月、会議のたびにその掲示が変わっているのを見るのが楽しみでした。また、新生小学校の時もそうでしたけれど、子ども会がまだしっかりしており、地域で子どもを育てています。これも、立川の学校の特長として非常に強く感じていることです。そういう土壌だから生まれる学校の姿が、この学校ならではの姿になっていくと良いなと思います。

時間があれば皆さんに議論していただきたいと思っていたのは、表紙タイトルの副題です。立川市新校舎建設マスタープランというだけではさみしい。委員の皆さんの想いを表す副題をつけたいと思いました。私は、東日本大震災で津波被害を受けた石巻市の学校復興に関わり、それぞれの学校で半年くらいかけて、今回同様、地域、保護者の皆さんや先生方と基本構想をまとめることをしました。その際に、報告書の表紙の副題を皆さんで議論しました。一つの中学校は、「地域と共に 夢のある楽しい学校の創造を目指して」となりました。もう一つは、雄勝という地域の5校が統合して小中一体の施設になった学校で、子どもの数が全校30人の極小規模校です。住むところ、働くところと並んで、子どもが育つところが見えた時に初めて地域が復興したと実感できるという感じで、皆で議論しました。「雄勝プロジェクト 未来へ希望の宝箱」でした。何

かいい副題の案がありましたら、事務局にお寄せいただけたらと思います。

最後になりますが、今日、出た意見を踏まえた修正については、皆さんに確認していただく時間がないので、委員長、副委員長と事務局にお任せいただけたらと思いますが宜しいでしょうか

【一 同】 宜しいです。

【委員長】 責任をもって目を通させていただき、まとまったところで事務局から各委員に郵送させていただきたいと思います。検討委員の皆様におかれましては、長い間様々な観点からご意見いただきありがとうございます。委員長としてお礼申し上げます。

4 その他

・事務局より説明

第8回検討委員会の議事要旨について修正があれば、3月15日までにご連絡いただきたい。また、第9回検討委員会の議事要旨については後日郵送しますので、ご確認ください。